

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105250		
法人名	株式会社 ファミリーズ		
事業所名	グループホーム パラディーソ神宮寺		
所在地	岡山県岡山市北区北方1-14-3		
自己評価作成日	令和 6 年 9 月 10 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、安心して過ごして頂けるような環境にしている。一人一人のペースで穏やかに生活して頂いている。コロナが5類感染症へ移行されたとはいえ、コロナ禍で自己免疫力が低下しているので、必要最低限の感染対策はもちろん、ご入居者様・職員共に健康管理に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105250-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 10 月 18 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員間の風通しを良くし、気兼ねなく話し合える場や関係を構築している。そんな職員同士の和気藹々とした雰囲気が利用者にも伝わっている。リビングに面したウッドデッキの広々とした日当たりが良く爽やかな風の中、一緒に育てている季節の野菜や花たちに癒されながら日向ぼっこをしていた。男性職員は、異性介助がやむを得ない時や女性利用者が男性職員に対し遠慮する様子が見られる時には、利用者の心のドアを優しくノックし、言葉掛けの仕方を工夫し、「あんたに任せるわ」の言葉を頂き、安心感を与えている。利用者家族も同様に、寄り添いながら職員全員で対応していて、離れて暮らす家族との絆を一層深めれるようにコミュニケーションを図り、利用者、家族からも喜ばれている。経験年数の長いベテランの職員が多いことも看取りを希望される方の安心感に繋がっている。お昼に頂いた食事は、ケータリングだが一汁三菜が考えられており、味付けも優しく、家庭的な温かさを感じられた。午後からは、幼稚園児達の元気な声が外から聞こえ、リビングの方からも笑い声が舞っていた。事業所の中は木の温もりと利用者を想う温かな雰囲気に包まれており、心地良い居場所を作っていた。それぞれ利用者一人一人に寄り添いたいという礎が根深く浸透している。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務内での疑問点・改善点が必要な時には申し送り時に話し合い、解決できない時には職員会議で話し合い、ケアの統一を図っている。運営委員会を設ける。	理念は事務所に掲示している。職員は入社したら必ず目にすることで日々のケアに反映させている。入社時には本部研修で理念を学ぶ機会を設けている。職員は利用者に「大切にされていると感じていただけるよう」利用者への声掛けに努めていることで、理念の実践となっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年ならば町内掃除・町内イベントに積極的に参加し、幼稚園へのイベントにも参加している。中学生の職場体験も毎年受け入れているが今年度については町内清掃に参加している程度。コロナ5類移行に伴い感染状況をみながら、町内清掃やイベントに参加するようにしている。	町内会へ加入しており回覧板で地域の情報を得ている。今月は秋祭り開催お知らせが届いた。町内清掃へは利用者と職員が参加している。近隣にある法人ホールで毎月お茶会も開催しており地域住民の参加がある。法人内に軽音部があり、春と秋に音楽会を開催しており、地域の方との交流の場となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と町内行事に参加したり、運営推進会議に町内会長・民生委員の方に参加して頂き、認知症の理解・支援の仕方を理解して頂ける機会を作っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	弊社主催と他事業所様の運営推進会議へ参加する事で、色々な意見交換を行いお互いの取り組みを参考にしサービスの向上に活かしている。	会議には地域包括支援センター、事業者指導課、家族代表、近隣のグループホームやデイサービスの管理者が参加している。取り組み状況を報告すると家族からは満足しているとの評価をいただいた。近隣の他事業所の運営推進会議へも管理者が参加しており、新たな情報を得て運営に活かしている。	さらに地域住民の声も拾い上げていく工夫をしてはいかがでしょうか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・県の研修に参加している。運営推進会議にも参加頂いており、意見交換や近況報告を行い、協力関係に繋げている。	窓口は管理者。行政の職員とも顔見知りの関係でありわからないことは尋ねるとすぐに教えてくれ新しい情報も伝えてくれる。毎月空室状況の報告をしている。消防署職員とも消火器や火災報知器など消防設備についての気軽に意見交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設立し、委員会を中心として勉強会を行い、拘束のないケアを行っている。	法人で委員会があり2ヶ月に1回開催をして研修は年3回実施している。「スピーチロック」などテーマに沿った動画を見て、不適切な声掛けの言い換え票を作成し職員に配布して周知している。利用者は、職員の見守る中なら一階と二階の行き来は自由にできる。日頃から職員間でも注意し合える関係性である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待防止委員会を中心に、様々な事例を含め職員会議やグループ全体研修などで勉強している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度を利用する機会があり、勉強になった。今後必要とする方が出てくるかもしれないので制度について理解できる研修を考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・締結・解約。また改定時にご家族と面会し、十分に話し合いを行い理解・納得してもらえるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂いたり、個別に意見・要望を聞いている。またご家族からの意見・要望は職員で共有している。	家族とのコミュニケーションは職員全員がとれ、話しやすい関係性ができている。家族の要望もその都度ききすぐに対応している。SNSも活用し、状態報告などタイムリーに報告している。マイナンバーカードの作成など家族が不安なことを協力し解決した。家族との外出外泊も要望にて実現している。面会も現在は対面で各居室内で行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に面談を行ったり、会議などで話し合い、職員の提案などを受け入れている。	職員間の連絡ノートやグループラインを活用したり、毎月の会議内でカンファレンスを行い情報共有している。ケアに関する使用物品の提案もあり購入したこともある。年2回は管理者や総務との面談もあり意見を伝える場もある。月一回の行事は職員が企画して実施している。職員の勤務は有給や休日も取りやすい。離職率が低くベテラン職員が多い。	職員のスキルアップの機会をさらに拡げてはいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談したり、総務に不安や不満を言いに行ける環境を作り、楽しく働けるよう努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修の内容や感想を会議で発表を行っている。外部研修の声掛けなども行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流を積極的に行う。今後としては、多くの管理者同士で交流が行える機会を設ける予定。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を何度か行い、ご家族・ご本人から今までの生活歴を聞き、今までの生活に近づけるよう努めている。接する時間も大切に、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談でご本人・ご家族の意見や要望を聞き入れ、入居された次の日にご家族へホームでの様子を電話で報告している。LINEも活用。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談・話し合いでご本人・ご家族が求めているものを見極め要望に近づける為に、傾聴・共感しながら寄り添った支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることはして頂き、洗濯物干し・たたみ・トレ拭きなど、職員と行い共同生活を楽しくして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族の役割をなくす事なくご家族・職員が協力 し、話し合いを行い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策をしながらそれぞれの居室にて対面での 面会を調整している。遠方の方などにはLINEを活 用して対応している。	外出した時は、墓参りや友達に会いに行ったり、 兄弟からの電話を取り次いだ時は、たつぷりと話 をして頂いている。訪問理美容の方とも十年以上 の関係があり馴染みの人となっている。居室には 掛け軸や写真など以前から使用している物を持 ち込み落ち着ける空間となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	ご利用者同士の関係を理解し、職員が入りながら 関わりを持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も必要があればご本人・ご家族の相談に応 じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の会話からご本人の希望・想いを見つけられ るよう努め、会話で気になったことは記録に残し、 職員で共有している。	日常会話の中で利用者が好きなことややりたいこ となど聞き出し、お店を経営していた利用者には お盆拭きを依頼し、役割を持って貰い感謝の言葉 を毎回かけることで自分を必要としてくれていると 感じて頂いている。異性の職員にも本音をだせる ように言葉掛けの仕方など工夫しながら対応して いることで安心してケアを任せていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	メディカルソーシャルワーカーやケアマネジャーと 連絡を密に行いながら、ご家族やご本人からも情 報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の生活リズムを大切に、心身状態を職員が理解し変化があれば情報を記録に残し、色分けしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者との会話で要望を聞き、ご家族には面会時・電話などで聞き取り介護計画に反映している。	プランは半年ごとに見直し、状態変化があればその都度変更している。体調不良の訴えが多かった方も家族からの要望で穏やかに過ごして欲しいとのことで入居後はほとんど訴えがなくなり本人の不安がなくなった。歩きたい、リハビリがしたいと要望されている方には職員が付き添い、歩行訓練や散歩を行っている。医師にも体調について意見を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・変化・出来事などの記録に残し見直しても分かり易いように色分けし、申し送りで情報共有をしている。連絡ノートも活用。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じ、病院などの同行や必要な物品などの買い物も職員が行う事で、ご本人・ご家族の負担軽減に繋がっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会長・民生委員に参加して頂き、地域交流に協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じ、必要な時には医院の紹介も行っている。医療連携して頂いている医院には月1回及び2回の往診対応して頂き、体調不良時には随時連絡し対応して頂いている。	入居前からの主治医を継続している方もいる。協力医に転医された方は往診が月に1～2回。MCSで協力医とはいつでも連絡できる環境にあり、日頃の不安も相談しやすい。24時間対応なので緊急時も安心である。訪問歯科や歯科衛生士の口腔ケアも行っている。他科受診は家族または看護師が受診の付き添いを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化を見落とさず、職員・ナースと情報共有し往診時に報告している。急変時には、休日・夜間でも連絡し指示を貰いながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院前に電話や病院へ伺ってカンファレンスしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできる事・出来ないことについて説明を行い重度化・終末期について話し合いを行っている。看取りについての要望も聞き取り、必要に応じて変更し情報・要望は職員・看護師と共有している。	看取りケアを実施している。重度化した場合の指針があり、入居時に家族へ確認をしている。入院していた利用者が「最期はここに帰ってきたい」と家族からも要望があり、グループホームで家族と共に看取ることができた。最期に本人の希望を叶えることができ、家族は大変喜ばれた。家族が後悔のないケアをしようと職員全員で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応は、職員会議や状態悪化前などで随時話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に職員の防災意識を高めている。年2回訓練を行っている。	年2回火災と水害避難訓練を行っている。玄関、廊下、リビングに避難経路、玄関にハザードマップを掲示している。有事の際は連絡網と職員間のSNSで周知している。管理者は防災アプリでタイムリーな情報を得ている。3日分の水分や食料を備蓄保管している。現在防災委員会で発動機とソーラーパネルの購入を検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時にノック・声掛けを行い、トイレ誘導時も言葉に気を付け誘導を行っている。	呼称は苗字でさん付けが基本。時に利用者の状態に合わせ下の名前で呼ぶことで利用者の気分を損ねないように気を付けている。トイレ誘導時は「ちょっと行きましょうか」と言葉掛けし、自尊心に配慮している。自分の居室がわからない方以外の部屋にはネームプレートはない。接遇委員会は2ヶ月に一度開催し研修も年に一度行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から要望や希望を理解し、更衣時の衣服、パジャマなどは自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活ペースに合わせた生活を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服・パジャマを自分で選んで貰い外出時のお化粧・ヘアセットも行っている。希望があれば訪問散髪も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会には食べたい物の希望を聞いたり、月行事の食事やおやつなど無理のない範囲で手伝って頂いたり(片付けなど)、役割も楽しんで貰っている。	敷地内でイチジク、ネギ、フロッコリーなどの家庭菜園をしている。家族から頂いた季節の果物も楽しみとなっている。コップと箸は使い慣れた個人の物を持って来て頂いている。料理により陶器の器をかえ盛り付けにも工夫を凝らしている。食事前リビングには美味しそうな匂いが立ち込め食欲をそそっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量などを記録に残し不足している時には、栄養ドリンクや高カロリーゼリー等を取り入れたりしながら、バランスの良い食事を提供している。ご利用者の状態に合わせ食事形態も変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで口腔ケアを行い、出来ていないところは職員が支援し希望があれば、訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンのデータからトイレの声掛けを行ったり介助したりしている	トイレは各居室にある。利用者ごとの排泄チェック表を確認して、日中のトイレでの失敗が少なくなった方もいる。拒否がある方にも無理強いせず時間を置いて、スムーズに排泄介助に繋がっている。トイレのドアに可愛い鈴をつけることで夜間でも、職員が見守り易く、安全にトイレでの排泄をすることができている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便が出やすいものを提供、水分も細目に提供。主治医へ連絡し、下剤などの調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望・体調に合わせて対応。入浴剤などで楽しんで頂き、時間の変更なども応じている。	基本は週2回。入浴するまでが億劫な方も言葉掛けの工夫や脱衣場の温度調整をし、快適にお風呂へ行けるようにしている。長湯して、のぼせないようタイマーを活用し、体調面にも配慮している。湯舟に浸かれない時は足浴やシャワー浴を提供。入浴中は職員と昔話に花が咲き、楽しい場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方もいらっしゃいますが、夜に安眠出来るようお昼寝の時間を調整を行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを利用し薬の変更があれば記録に残して申し送りして譲歩共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事を見つけ、役割を持って貰うことで張り合いを感じて貰えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	密を避けるため買い物の要望がある際はリストをピックアップしてもらい職員が代行している。	近隣への散歩をされる方もいる。ウッドデッキに出て家庭菜園の水やりをしたり洗濯物を干したりして頂き、戸外の空気を味わっている。家族との外出、外泊支援も行っている。法人が行っている音楽会やお茶会へも参加している。現在は紅葉ドライブを計画中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族が了承のもとご本人が金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご友人・知人との電話での通話の支援を行っている。ご家族・知人への連絡も自由に出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有時間は常に清潔を心掛けている。季節に応じた飾り付けなどで利用者様に今の季節を感じていただいている。一緒に飾りを作ることもある。	リビングにはウッドデッキに面した掃き出し窓があり日光や風が通りやすく心地よい。今年は猛暑の為、2階の窓にはカーテンを設置し温度上昇を防いでいた。リビングでの席次も利用者の個性に応じて落ち着ける空間を提供している。利用者同士の会話も弾みやすい。壁には季節に応じた飾り付けが施され、職員の特技が活かされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席やソファで過ごしたり、その時の気分で過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持参して頂き、安全を考えて配慮している。	備え付けは、ベッド、ダンス、トイレ、洗面台、エアコン、照明。利用者個々に合わせて家具を配置している。木がふんだんに使用され、窓には障子があり、温かみのある居室となっている。ひ孫の写真や、自宅から持ってきた掛け軸を飾ったり、テレビ、テーブルを持ち込まれている方もいる。鏡を見ながら毎日化粧をして、おめかしを楽しむ方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険を配慮し、手の届く高さ・目線に合わせた物の配置にしている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105250		
法人名	株式会社 ファミリス		
事業所名	グループホーム パラディーソ神宮寺		
所在地	岡山県岡山市北区北方1-14-3		
自己評価作成日	令和 6 年 9 月 10 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、安心して過ごして頂けるような環境にしている。一人一人のペースで穏やかに生活して頂いている。コロナが5類感染症へ移行されたとはいえ、コロナ禍で自己免疫力が低下しているので、必要最低限の感染対策はもちろん、ご入居者様・職員共に健康管理に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105250-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 10 月 16 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員間の風通しを良くし、気兼ねなく話し合える場や関係を構築している。そんな職員同士の和気藹々とした雰囲気が利用者にも伝わっている。リビングに面したウッドデッキの広々とした日当たりが良く爽やかな風の中、一緒に育てている季節の野菜や花たちに癒されながら日向ぼっこをしていた。男性職員は、異性介助がやむを得ない時や女性利用者が男性職員に対し遠慮する様子が見られる時には、利用者の心のドアを優しくノックし、言葉掛けの仕方を工夫し、「あんたに任せるわ」の言葉を頂き、安心感を与えている。利用者家族も同様に、寄り添いながら職員全員で対応していて、離れて暮らす家族との絆を一層深めれるようにコミュニケーションを図り、利用者、家族からも喜ばれている。経験年数の長いベテランの職員が多いことも看取りを希望される方の安心感に繋がっている。お昼に頂いた食事は、ケータリングだが一汁三菜が考えられており、味付けも優しく、家庭的な温かさを感じられた。午後からは、幼稚園児達の元気な声が外から聞こえ、リビングの方からも笑い声が舞っていた。事業所の中は木の温もりと利用者を想う温かな雰囲気に包まれており、心地良い居場所を作っていた。それぞれ利用者一人一人に寄り添いたいという礎が根深く浸透している。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務内での疑問点・改善点が必要な時には申し送り時に話し合い、解決できない時には職員会議で話し合い、ケアの統一を図っている。運営委員会を設ける。	理念は事務所に掲示している。職員は入社したら必ず目にする事で日々のケアに反映させている。入社時には本部研修で理念を学ぶ機会を設けている。職員は利用者に「大切にされていると感じていただけるよう」利用者への声掛けに努めていることで、理念の実践となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年ならば町内掃除・町内イベントに積極的に参加し、幼稚園へのイベントにも参加している。中学生の職場体験も毎年受け入れているが今年度については町内清掃に参加している程度。コロナ5類移行に伴い感染状況をみながら、町内清掃やイベントに参加するようにしている。	町内会へ加入しており回覧板で地域の情報を得ている。今月は秋祭り開催お知らせが届いた。町内清掃へは利用者と職員が参加している。近隣にある法人ホールで毎月お茶会も開催しており地域住民の参加がある。法人内に軽音部があり、春と秋に音楽会を開催しており、地域の方との交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と町内行事に参加したり、運営推進会議に町内会長・民生委員の方に参加して頂き、認知症の理解・支援の仕方を理解して頂ける機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	弊社主催と他事業所様の運営推進会議へ参加する事で、色々な意見交換を行いお互いの取り組みを参考にしサービスの向上に活かしている。	会議には地域包括支援センター、事業者指導課、家族代表、近隣のグループホームやデイサービスの管理者が参加している。取り組み状況を報告すると家族からは満足しているとの評価をいただいた。近隣の他事業所の運営推進会議へも管理者が参加しており、新たな情報を得て運営に活かしている。	さらに地域住民の声も拾い上げていく工夫をしてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・県の研修に参加している。運営推進会議にも参加頂いており、意見交換や近況報告を行い、協力関係に繋げている。	窓口は管理者。行政の職員とも顔見知りの関係でありわからないことは尋ねるとすぐに教えてくれ新しい情報も伝えてくれる。毎月空室状況の報告をしている。消防署職員とも消火器や火災報知器など消防設備についての気軽に意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設立し、委員会を中心として勉強会を行い、拘束のないケアを行っている。	法人で委員会があり2ヶ月に1回開催をして研修は年3回実施している。「スピーチロック」などテーマに沿った動画を見て、不適切な声掛けの言い換え票を作成し職員に配布して周知している。利用者は、職員の見守る中なら一階と二階の行き来は自由にできる。日頃から職員間でも注意し合える関係性である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待防止委員会を中心に、様々な事例を含め職員会議やグループ全体研修などで勉強している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度を利用する機会があり、勉強になった。今後必要とする方が出てくるかもしれないので制度について理解できる研修を考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・締結・解約。また改定時にご家族と面会し、十分に話し合いを行い理解・納得してもらえるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂いたり、個別に意見・要望を聞いている。またご家族からの意見・要望は職員で共有している。	家族とのコミュニケーションは職員全員がとれ、話しやすい関係性ができている。家族の要望もその都度ききすぐに対応している。SNSも活用し、状態報告などタイムリーに報告している。マイナンバーカードの作成など家族が不安なことを協力し解決した。家族との外出外泊も要望にて実現している。面会も現在は対面で各居室内で行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に面談を行ったり、会議などで話し合い、職員の提案などを受け入れている。	職員間の連絡ノートやグループラインを活用したり、毎月の会議内でカンファレンスを行い情報共有している。ケアに関する使用物品の提案もあり購入したこともある。年2回は管理者や総務との面談もあり意見を伝える場もある。月一回の行事は職員が企画して実施している。職員の勤務は有給や休日も取りやすい。離職率が低くベテラン職員が多い。	職員のスキルアップの機会をさらに拡げてはいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談したり、総務に不安や不満を言いに行ける環境を作り、楽しく働けるよう努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修の内容や感想を会議で発表を行っている。外部研修の声掛けなども行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流を積極的に行う。今後としては、多くの管理者同士で交流が行える機会を設ける予定。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を何度か行い、ご家族・ご本人から今までの生活歴を聞き、今までの生活に近づけるよう努めている。接する時間も大切に、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談でご本人・ご家族の意見や要望を聞き入れ、入居された次の日にご家族へホームでの様子を電話で報告している。LINEも活用。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談・話し合いでご本人・ご家族が求めているものを見極め要望に近づける為に、傾聴・共感しながら寄り添った支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることはして頂き、洗濯物干し・たたみ・トレ拭きなど、職員と行い共同生活を楽しくして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族の役割をなくす事なくご家族・職員が協力 し、話し合いを行い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策をしながらそれぞれの居室にて対面での 面会を調整している。遠方の方などにはLINEを活 用して対応している。	外出した時は、墓参りや友達に会いに行ったり、 兄弟からの電話を取り次いだ時は、たつぷりと話 をして頂いている。訪問理美容の方とも十年以上 の関係があり馴染みの人となっている。居室には 掛け軸や写真など以前から使用している物を持 ち込み落ち着ける空間となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	ご利用者同士の関係を理解し、職員が入りながら 関わりを持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も必要があればご本人・ご家族の相談に応 じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の会話からご本人の希望・想いを見つけられ るよう努め、会話で気になったことは記録に残し、 職員で共有している。	日常会話の中で利用者が好きなことややりたいこ となど聞き出し、お店を経営していた利用者には お盆拭きを依頼し、役割を持って貰い感謝の言葉 を毎回かけることで自分を必要としてくれていると 感じて頂いている。異性の職員にも本音をだせる ように言葉掛けの仕方など工夫しながら対応して いることで安心してケアを任せていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	メディカルソーシャルワーカーやケアマネジャーと 連絡を密に行いながら、ご家族やご本人からも情 報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の生活リズムを大切に、心身状態を職員が理解し変化があれば情報を記録に残し、色分けしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者との会話で要望を聞き、ご家族には面会時・電話などで聞き取り介護計画に反映している。	プランは半年ごとに見直し、状態変化があればその都度変更している。体調不良の訴えが多かった方も家族からの要望で穏やかに過ごして欲しいとのことで入居後はほとんど訴えがなくなり本人の不安がなくなった。歩きたい、リハビリがしたいと要望されている方には職員が付き添い、歩行訓練や散歩を行っている。医師にも体調について意見を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・変化・出来事などの記録に残し見直しても分かり易いように色分けし、申し送りで情報共有をしている。連絡ノートも活用。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じ、病院などの同行や必要な物品などの買い物も職員が行う事で、ご本人・ご家族の負担軽減に繋がっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会長・民生委員に参加して頂き、地域交流に協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じ、必要な時には医院の紹介も行っている。医療連携して頂いている医院には月1回及び2回の往診対応して頂き、体調不良時には随時連絡し対応して頂いている。	入居前からの主治医を継続している方もいる。協力医に転医された方は往診が月に1～2回。MCSで協力医とはいつでも連絡できる環境にあり、日頃の不安も相談しやすい。24時間対応なので緊急時も安心である。訪問歯科や歯科衛生士の口腔ケアも行っている。他科受診は家族または看護師が受診の付き添いを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化を見落とさず、職員・ナースと情報共有し往診時に報告している。急変時には、休日・夜間でも連絡し指示を貰いながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院前に電話や病院へ伺ってカンファレンスしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできる事・出来ないことについて説明を行い重度化・終末期について話し合いを行っている。看取りについての要望も聞き取り、必要に応じて変更し情報・要望は職員・看護師と共有している。	看取りケアを実施している。重度化した場合の指針があり、入居時に家族へ確認をしている。入院していた利用者が「最期はここに帰ってきたい」と家族からも要望があり、グループホームで家族と共に看取ることができた。最期に本人の希望を叶えることができ、家族は大変喜ばれた。家族が後悔のないケアをしようと職員全員で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応は、職員会議や状態悪化前などで随時話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に職員の防災意識を高めている。年2回訓練を行っている。	年2回火災と水害避難訓練を行っている。玄関、廊下、リビングに避難経路、玄関にハザードマップを掲示している。有事の際は連絡網と職員間のSNSで周知している。管理者は防災アプリでタイムリーな情報を得ている。3日分の水分や食料を備蓄保管している。現在防災委員会で発動機とソーラーパネルの購入を検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時にノック・声掛けを行い、トイレ誘導時も言葉に気を付け誘導を行っている。	呼称は苗子でさん付けが基本。時に利用者の状態に合わせて下の名前で呼ぶことで利用者の気分を損ねないように気を付けている。トイレ誘導時は「ちょっと行きましょうか」と言葉掛けし、自尊心に配慮している。自分の居室がわからない方以外の部屋にはネームプレートはない。接遇委員会は2ヶ月に一度開催し研修も年に一度行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から要望や希望を理解し、更衣時の衣服、パジャマなどは自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活ペースに合わせた生活を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服・パジャマを自分で選んで貰い外出時のお化粧・ヘアセットも行っている。希望があれば訪問散髪も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会には食べたい物の希望を聞いたり、月行事の食事やおやつなど無理のない範囲で手伝って頂いたり(片付けなど)、役割も楽しんで貰っている。	敷地内でイチジク、ネギ、フロッコリーなどの家庭菜園をしている。家族から頂いた季節の果物も楽しみとなっている。コップと箸は使い慣れた個人の物を持って来て頂いている。料理により陶器の器をかえ盛り付けにも工夫を凝らしている。食事前リビングには美味しそうな匂いが立ち込め食欲をそそっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量などを記録に残し不足している時には、栄養ドリンクや高カロリーゼリー等を取り入れたりしながら、バランスの良い食事を提供している。ご利用者の状態に合わせ食事形態も変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで口腔ケアを行い、出来ていないところは職員が支援し希望があれば、訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンのデータからトイレの声掛けを行ったり介助したりしている	トイレは各居室にある。利用者ごとの排泄チェック表を確認して、日中のトイレでの失敗が少なくなった方もいる。拒否がある方にも無理強いせず時間を置いて、スムーズに排泄介助に繋がっている。トイレのドアに可愛い鈴をつけることで夜間でも、職員が見守り易く、安全にトイレでの排泄をすることができている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便が出やすいものを提供、水分も細目に提供。主治医へ連絡し、下剤などの調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望・体調に合わせて対応。入浴剤などで楽しんで頂き、時間の変更なども応じている。	基本は週2回。入浴するまでが億劫な方も言葉掛けの工夫や脱衣場の温度調整をし、快適にお風呂へ行けるようにしている。長湯して、のぼせないようタイマーを活用し、体調面にも配慮している。湯舟に浸かれない時は足浴やシャワー浴を提供。入浴中は職員と昔話に花が咲き、楽しい場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方もいらっしゃいますが、夜に安眠出来るようお昼寝の時間を調整を行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを利用し薬の変更があれば記録に残して申し送りして譲歩共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事を見つけ、役割を持って貰うことで張り合いを感じて貰えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	密を避けるため買い物の要望がある際はリストをピックアップしてもらい職員が代行している。	近隣への散歩をされる方もいる。ウッドデッキに出て家庭菜園の水やりをしたり洗濯物を干したりして頂き、戸外の空気を味わっている。家族との外出、外泊支援も行っている。法人が行っている音楽会やお茶会へも参加している。現在は紅葉ドライブを計画中である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族が了承のもとご本人が金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご友人・知人との電話での通話の支援を行っている。ご家族・知人への連絡も自由に出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有時間は常に清潔を心掛けている。季節に応じた飾り付けなどで利用者様に今の季節を感じていただいている。一緒に飾りを作ることもある。	リビングにはウッドデッキに面した掃き出し窓があり日光や風が通りやすく心地よい。今年は猛暑の為、2階の窓にはカーテンを設置し温度上昇を防いでいた。リビングでの席次も利用者の個性に応じて落ち着ける空間を提供している。利用者同士の会話も弾みやすい。壁には季節に応じた飾り付けが施され、職員の特技が活かされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席やソファで過ごしたり、その時の気分で過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持参して頂き、安全を考えて配慮している。	備え付けは、ベッド、ダンス、トイレ、洗面台、エアコン、照明。利用者個々に合わせて家具を配置している。木がふんだんに使用され、窓には障子があり、温かみのある居室となっている。ひ孫の写真や、自宅から持ってきた掛け軸を飾ったり、テレビ、テーブルを持ち込まれている方もいる。鏡を見ながら毎日化粧をして、おめかしを楽しむ方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険を配慮し、手の届く高さ・目線に合わせた物の配置にしている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				